

活動報告会

PBL とは

PBL (Project Based Learning) 技法は、昨今その教育効果の高さが注目されているアクティブラーニングの一種であり、「課題解決型学習」と訳されます。茨城大学では、2010年度以来、学生の就業力育成支援を目指す教育プログラム「根力（ねぢから）育成プログラム」の構築を進めており、その中核としてPBL技法に基づく授業を位置づけています。

- 地域連携ポータル ● 本学学生が個別に行っている各種地域連携活動の横のつながりを強化
- CCP ● 本学水戸キャンパスと常陸大宮市盛金で、留学生・日本人学生・高校生・地元の方々との交流促進
- SODC ● 途上国の小学校への支援事業ならびに地域の方々への途上国に関する知識普及
- ビブリオバトル in 常陸太田 ● 常陸太田市旧市街を中心に、知的書評合戦ビブリオバトルの普及促進
- ホーリーホック応援支隊 ● 茨城大学生に対するFC水戸ホーリーホックの認知度上昇
- ホーリーホック・バス ● ホームゲーム時のシャトルバス利用促進
- ミトランティア ● 水戸の学生目線のタウン誌発行
- めだかの学校復活 ● 水戸市逆川緑地の外来魚駆除と環境保全
- 水戸の魅力発掘隊 ● 水戸市の魅力を再発見し、外部に発信
- Teamネバーランド ● 水戸名産・納豆の普及促進
- アドバイザー ● プロジェクト実習受講経験者の4年生による各チームへのアドバイス

活動報告後、
皆様の投票により
最優秀チームを
決定します！

日時

平成26年
2月1日(土)

13:00~17:30 (12:20受付開始)

※12:20~12:50にプロジェクト実習A・B受講全14チーム
による活動紹介をポスターセッション形式で実施します。

会場

茨城大学 人文学部 10 番教室

主催 茨城大学人文学部 (市民共創教育研究センター)

共催 常磐大学 / 茨城キリスト教大学 / 常陸太田市 /
茨城大学大学教育センター

後援 泉町二丁目商店街振興組合 (水戸市)

活動報告会に関するお問い合わせは

☎029-228-8115 または

Eメール suzukia@mx.ibaraki.ac.jp 鈴木 敦まで

担当教員より

今年度のプロジェクト実習は、人文学部学生を中心に教育学部・工学部、さらに単位互換協定を結んでいる茨城キリスト教大学・常磐大学の学生が参加しており、11チームに分かれて活発に活動しています。

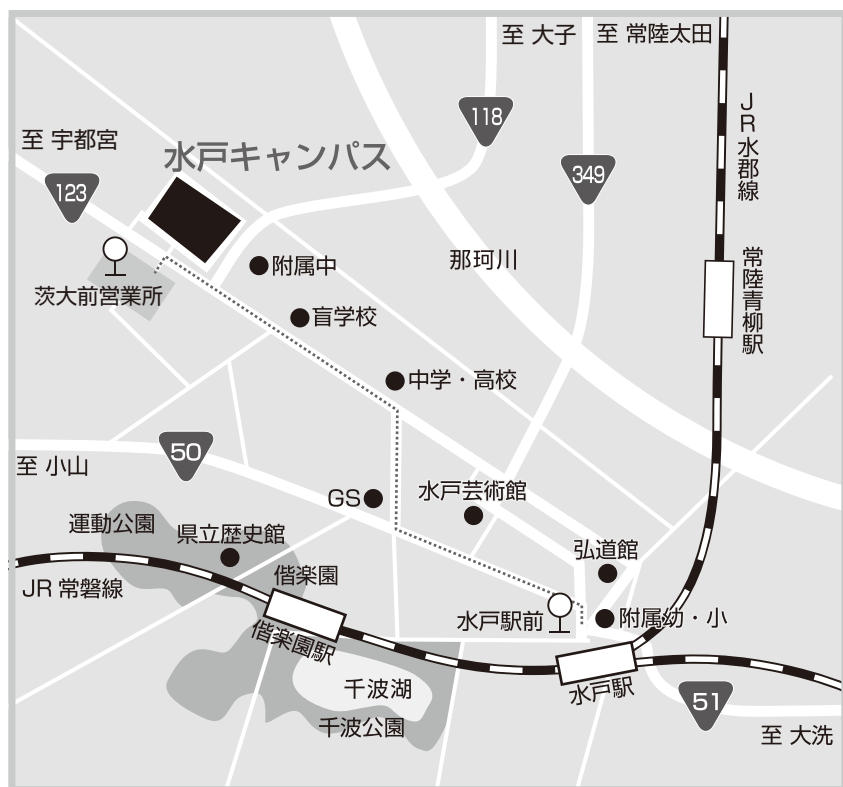
いずれの活動においても地域の皆様と密接に連携させていただき、種々のご支援を賜りました。活動報告会では各チームから活動の成果をご報告させていただくとともに、皆様からの率直なご意見をいただければ幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

茨城大学 人文学部教授 鈴木 敦

活動報告会

プレゼンバトル終了後、皆様の投票により最優秀チームを選出します。最優秀チームは2月13日の茨城大学フォーラム「アクティブラーニングの全学展開を考える」で活動報告発表を行います。

- 0 ポスターセッション** 12:20-12:50
プロジェクト実習A・B受講全14チームによる活動紹介をポスターセッション形式で実施
- 1 開会挨拶** 13:00-13:05
伏見厚次郎（茨城大学人文学部長）
- 2 根付育成プログラムの概要とプロジェクト実習の位置づけ** 13:05-13:15
鈴木敦（担当教員）
- 3 学生チーム活動報告** 13:15-16:55
(1) 報告の進め方ならびにプレゼンバトルのルール説明 鈴木敦（担当教員）
(2) チーム活動報告A
アドバイザーチーム
(3) チーム活動報告B
①ミトランティア ②めだかの学校復活 ③水戸の魅力発掘隊 ④Team ネバーランド
-休憩-（10分）
⑤ホーリーホック応援支隊 ⑥ホーリーホック・バス ⑦ビブリオバトル in 常陸太田
⑧CCP ⑨SODC ⑩地域連携ポータル
(4) 投票
-休憩-（10分）
(5) 最優秀チーム発表・表彰・講評
- 4 トークセッション「プロジェクト実習・今後の展開」** 16:55-17:25
学生チームメンバー
チーム顧問教員
宮本紘太郎（泉町二丁目商店街振興組合）
園部浩（茨城大学イノベーション創成機構）
齋藤義則（茨城大学人文学部市民共創教育研究センター）
◎ファシリテーター 鈴木敦
- 5 閉会挨拶** 17:25-17:30
齋藤義則（茨城大学人文学部市民共創教育研究センター長）



日時 平成26年
2月1日(土) 13:00-17:30
12:20 受付開始

会場 茨城大学 人文学部10番教室
水戸キャンパス
JR水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」に乗り、「茨大前営業所」で下車。バス乗車時間は約30分。
茨城交通HP ▶ www.ibako.co.jp

お問い合わせは
☎029-228-8115 または
Eメール suzukia@mx.ibaraki.ac.jp
茨城大学 鈴木 敦まで

根力育成プログラムの 概要と プロジェクト実習の 位置付け

茨城大学人文学部
プロジェクト実習担当教員
鈴木 敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

就職力と就業力

就職力：

面接対策などの、就職試験突破のための力

就業力：

就職活動時だけでなく、
就職後も活躍して行ける
ための種々の能力の総体



要するに・・・

大学生が、卒業時に
身につけておくべき能力

「学士力」・「社会人基礎力」

そして、「**根力(ねぢから)**」

「根力(ねぢから)」とは

茨城大学の学生が、
卒業時に

身につけているべき能力

根力の構成要素（大枠）

1. 基礎的素養
2. 社会生活力
3. 行動力
4. 思考力
5. チームワーキング力

根力の構成要素（詳細）

1. 基礎的素養 この素養の上に 「根力」を構築していく	語彙	文章読解能力、論理的思考力、分析力
	書き	文章作成能力、論理的思考力、分析力
2. 社会生活力	シロ/メン	基本的な行動力
	話す	説明能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力
3. 行動力	生活力	自立した生活を実践できる力
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑にするための力
4. 思考力	情報収集力	生活を送る上で必要な、情報がどこにあり、どのようにすれば入手できるかを把握する力
	主体性	物事に進んで取り組む力
5. チームワーキング 能力	実行力	他人の期待が重なる力
	実行力	目的を達成、結果に行動する力
4. 思考力	対応力	物事に臨み、疑問に思い、主体的に対応する力
	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力
4. 思考力	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力
	想像力	課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況をイメージする力
4. 思考力	課題解決力	課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力
	実行力	自分の意見をわかりやすく伝える力
5. チームワーキング 能力	理解力	相手の意見を丁寧に取り入れる力
	柔軟性	意見の衝突や立場の違いを、互いに理解する力
5. チームワーキング 能力	状況把握力	自分と周囲の人や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
5. チームワーキング 能力	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

茨城大学根力育成支援事業

1. 4年一貫の「根力育成プログラム」
2. アクティブラーニング(能動的学習)と
りわけ
PBL(課題対応型学習)技法の導入
3. 学生同士の相互教育体制
4. 学生の学びを学生自身と教職員が共有するための電子ポートフォリオシステムの構築

各種補助金

1. 文部科学省
大学生の就業力育成支援事業GP(2010~2011)
2. 文部科学省
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(2013~2014)
3. 総務省
「域学連携」地域づくり支援事業(2012)
4. 総務省
過疎集落等自立再生緊急対策事業(2013)

根力育成プログラム

各段階の全学目標		根力育成プログラム	
第一段階	根力育成プログラム 学生の自発的学びを促し、 社会で活躍するための基礎的な能力 ＝根力を育成するための土台を築く ①フレッシュマンゼミナール 高校生から大学生へ ②就業力育成ステップアップ系科目 自らの方向性を確認して次の段階へ	1年	根力育成プログラム ①フレッシュマンゼミナール
第二段階	根力強化プログラム 産学と実地体験を通して、 社会人として要求される能力を 理解・養成する	2年	根力育成プログラム ②就業力育成 ステップアップ系 科目 根力強化 プログラム
第三段階	根力実践プログラム 実際の活動を通して、 これまで培ってきた力を確認し、 不足点を把握して、自ら求めていく	3年	根力実践プログラム
		4年	根力実践プログラム

プロジェクト実習の位置付け(1)

根力強化プログラム(2・3年次)
「プロジェクト実習スタッフ編」

根力実践プログラム(3・4年次)
「プロジェクト実習リーダー編」

来年度からさらに・・・

「プロジェクト実習メンター編」を新設

プロジェクト実習の位置付け(2)

水戸市近郊を主たるフィールド
「プロジェクト実習A」

遠郊を主たるフィールド
「プロジェクト実習B」

来年度からさらに・・・

国際交流・異文化理解をテーマとする

「プロジェクト実習C」

PBL型インターンシップをテーマとする

「プロジェクト実習D」

を新設

来年度からの構成

授業科目名	プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ	未分化 (特田大吉)	地域連携 地域貢献 鈴木敦)	国際交流 異文化理解 杉本妙子)	PBL型 インターンシップ 井澤耕一)
段階 対象 学年				
根力強化 プログラム	2~4年	プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習C スタッフ編
根力実践 プログラム	3~4年	プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習C リーダー編
	4年	プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習C メンター編

引き続き
どうぞ宜しく御願ひ申し上げます



ご清聴感謝申し上げます

鈴木敦
suzukia@mx.ibaraki.ac.jp

プレゼンバトルのルール(1)

発表 . . . 12分
* 1分超過ごとに10点減点
質疑応答 . . . 2分
発表者交代 . . . 1分

プレゼンバトルのルール(2)

採点資格

プレゼンバトル参加・全10チームの
発表をお聞き下さった方

採点

配布の採点表に、各チームの発表が終わり
次第、速やかに点数を記入して下さい

首位チームへの投票

投票用紙のチェック欄に、1位と判断された
チームにのみ=1カ所だけチェックをして、
投票係にお渡し下さい

プレゼンバトルのルール(3)

採点方法

投票用紙1枚=1点として採点
します

時間超過による減点

発表時間の超過1分ごとに10点を
減点します

首位決定

以上の合計をチームの得点とします

プレゼンバトルのルール(4)

上位3チームには

伏見・茨城大学人文学部長より、
賞状と賞品が贈られます。

プレゼンバトルのルール(5)

頂上決戦へ！

首位チームは、来る2月13日に
茨城大学水戸キャンパスで開催される
フォーラム
「アクティブラーニングの全学展開を
考える」の中で、
プロジェクト実習Aの首位チームとの
「プレゼンバトル頂上決戦」に臨みます

では . . .

ふあいとお〜! <(-o-)/

＜活動報告 採点用紙＞

チーム名	① ミット ランティア	② めだか	③ 発掘隊	④ ネバー ランド	⑤ 応援支隊	⑥ バス	⑦ ビブリオ バトル	⑧ CCP	⑨ SODC	⑩ ポータル
課題発見力	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10
分析・構想力	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10
実行力	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10
プロジェクトの達成度	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10
地域への貢献度	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10
学生の学びの深さ	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10	／10
合 計	／60	／60	／60	／60	／60	／60	／60	／60	／60	／60
首位チームを 1つだけ ○囲んで下さい	① ミット ランティア	② めだか	③ 発掘隊	④ ネバー ランド	⑤ 応援支隊	⑥ バス	⑦ ビブリオ バトル	⑧ CCP	⑨ SODC	⑩ ポータル

アドバイザーチーム

2014/02/01/Sat
顧問：鈴木敦先生(茨城大学)
学生：芦田真子 齊藤かおり
鈴木愛実 武田暁人
番場有彩 山中健佑

INDEX

- ・経緯
 - ・目的
 - ・方法
 - ・結果
 - ・反省

経緯

プロジェクト実習は**2年目**
⇒**昨年度の経験を生かして、**
スタッフ編受講者の相談に乗ることを
「プロジェクト」

リーダー編受講者である
4年生メンバーで結成。

目的

プロジェクト活動をしている各チームが
困難に陥った際、相談を受け、
アドバイスを行なうこと。

方法

・鈴木先生によって
アドバイザーチームの存在を告知。
連絡先を紹介。

・メンバーは個人で相談を受ける。
前、後期の終わりに
相談実績をエビデンスとして集約し、
活動をまとめる。

結果

全14チームのうち**4チーム**から、
14の相談を受ける。

【相談内容例】

- ・昨年度の記録の問い合わせ
(バス会社やポスター印刷会社の詳細等)
- ・企画案の添削・意見
→昨年度の活動記録や経験に基づき、
メールで回答。

結果

- ・チーム活動方針・運営に関する相談を受けた際、
 - ・独自で**ワークショップ**を実施、出し合ったアイデアをまとめ、回答。
 - ・アドバイザーとチームメンバーが集まり、**ディスカッション**を行う。
 - ・プロジェクト活動の一部に参加
- 第三者の意見**として活用されるケース。

反省

- ・自発的な相談を待つだけでなく、各チームの動向に注意を傾ける必要があった。
 - ・相談をしてきたチーム(人)は、アドバイザーのメンバーと交流のある人物ばかりであった。
- ⇒アドバイザーチームからの**積極的な交流**や**相談がしやすい方法を検討する必要**があった。

反省

- ・アドバイスは自分の経験や視点からのみしか行なえないため、**メンバーが多ければ、多面的なアドバイス活動が行なえる**と思われる。
 - ・**第三者の視点(客観性)の重要性**
(ワークショップやディスカッション)
- ⇒協力的な体制を整えておくこと。
アドバイスだけでなくアイデアで活動支援。

ご清聴ありがとうございました。

学生向けボランティア情報誌 「ミランティア」

顧問 岩佐 淳一 先生
12L1174N 西川 友麻
12L1132N 比気 葵
12L2049F 小沼 礼佳
12L2155L 立原 菜摘
12L2197L 根本 颯希

目次

1. ミランティアとは-活動の目的
2. ミランティアとは-活動の流れ
3. 記事紹介
4. ボランティア取材の様子
5. 予算報告
6. 反省点
7. 学んだこと
8. 終わりに

1.ミランティアとは-活動の目的

- * 学生がボランティアに興味を持つきっかけをつくる
 - ・ 定期的にボランティア活動に参加している学生が少ない
 - ・ ボランティア情報が分散されている→生活空間の中で目につくところに存在すべき
- * 若い世代がボランティアという形で地域と関わる
→地域の活性化につながる

2.ミランティアとは-活動の流れ

- * 5月 情報誌テーマ決定
- * 6月 情報誌の形式を検討、制作にあたり必要な作業の確認
- * 7月 中間報告を受けて再検討、記事内容の情報収集、雑誌の見積もり
- * 8月 ボランティア情報収集、特集テーマ決定、取材テンプレート作成
- * 9月 取材のアポイント、構成確認
- * 10月 記事の執筆担当割り振り、ボランティア参加兼取材
- * 11月 次苑祭に出展、引き続き取材、荒稿作成、朱入れ
- * 12月 原稿作成
- * 1月 原稿作成、朱入れ、校正、ケラ作成
- * 2月 最終チェック、入稿、配布にあたり交渉
- * 3月 完成、配布

3.記事紹介

- * 導入
- * 特集
 - ・ はじめてのボランティア
 - ・ アフターボランティア
 - ・ アクセスマップ
 - ・ Pick-up
- * ボランティア情報一覧

※アフターボランティア:
グループでつくった造語。ボランティア後にメンバー同士で食事に行くなどして交流を深めること。

4.ボランティア取材の様子

- * 忍者遊び・・・「水戸こどもの劇場」
- * 歴史館スタンプラリー(11月)
- * 渡里小元気村(11月)・・・渡里小PTA

など、たくさんの方にご協力をいただきました！



5. 予算報告

- * 印刷代: B4カラー冊子20ページ・・・9万円前後
- * 取材に使用した交通費、飲食代・・・計 訳3000円
- * チーム予算4万円+学部予算5万円+自腹端数

<反省>

→ 予算を抑える方法が十分に検討されなかった。
(から作るのではなく、既存の媒体に記事を連載させていただくなど、企画目的の臨機応変な変更)

5. 反省点

- * スケジュールの見通し
 - * 全員が集まらない
- * 作業過程の知識不足
 - * 自ら調べようとしない、また共有の機会がない
- * 報告・連絡・相談の不足
 - * メールのやり取りがスムーズにいかない
 - * 疑問点を考えてこないためギリギリになって発覚する
- * 締め切りの徹底不足
 - * 事前に連絡なく締め切りを過ぎ、完成しなかった

→ 最終報告会に完成品を持参できなかった

6. 学んだこと

- * 作業をするにあたり、計画の妥当性をチェックする
 - 個人ではできない、受け身でもいけない
- * こまめに連絡を取り合う、些細なことでも相談する
 - ・ 報連相の徹底
 - ・ メールチェックのチェック

→ タスク管理の重要性

7. 終わりに

ミランティアの活動は完成していません。

三月上旬に各大学に設置していただけるよう引き続き活動を続けていきますのでよろしくをお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

めだかの学校 復活プロジェクト

顧問：大辻 永 先生
大森 賢人
小林 裕美
町田 祐磨
古田土 祐貴
中島 聡太

目次

1. プロジェクト概要
2. 活動まとめ
3. 今後の課題・展望
4. 決算報告

1. プロジェクト概要

目的: 水環境の改善

対象地: 逆川緑地

活動内容: 逆川の現状把握
公園整備活動



しかし・・・

ブラックバス
ブルーギル
カダヤシ
ミシシippアカミミガメ
グッピー など

本来生息するはずのない生物も多数生息

↑ ブラックバス



2. 活動まとめ

平成25年度	
6月16日	プロジェクト正式発足
28日	水戸市役所環境課・公園緑地課訪問
29日	水戸市立博物館特別展見学
7月18日	逆川緑地散策
10月19日	水生植物観察園の現状確認 ホタルレンジャーの活動に参加
31日	水生植物観察園で水生生物の観察
11月 2日	桜川水系クリーン作戦に参加
7日	水生植物観察園でクロメダカの撮影成功
9日	茨苑祭で展示企画
10日	〃
23日	逆川祭り(逆川を愛する会主催)参加
12月14日	ファーマーズマーケット参加
1月26日	公園整備活動

前期の活動

- 水戸市役所環境課、公園緑地課への聞き込み
- 文献調査

→ 生息する生き物の情報が不足

夏季休業中の活動

- Facebookによる広報の計画
10月末から始動・茨苑祭にて拡散を狙う
- 逆川を愛する会(市民団体)との接触
水生生物について明確な情報は得られず
- 現地調査の計画

後期の活動

- 茨城県環境管理協会の川島様と現状確認



→ ガマの移植・特定外来生物の駆除を計画

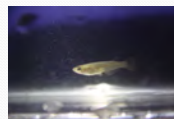
- 現地調査の行為許可申請

都市公園ゆえの壁・・・

都市公園の価値を損なう行為
動植物の採取は原則として禁止

→ 許可をいただき11月7日に実施

- 現地調査



クロメダカの生息を確認

- 茨苑祭

- プロジェクト紹介
- Facebookの宣伝
- アンケートの実施



逆川祭り

- プロジェクト紹介



ファーマーズマーケット

- プロジェクト紹介
- アンケートの実施

公園整備活動

- 「水戸市」と「めだかの学校復活プロジェクト」の協働事業という形で実現

活動内容: ブラックバスとブルーギルの駆除
セキショウ(40株程度)の移植
コウホネ(10株程度)の移植

公園整備活動～特定外来生物駆除～

- 罟(もんどり)の設置
練り餌を使用し2か所に設置
- 地曳網の借用
茨城県環境管理協会様より借用



公園整備活動～特定外来生物駆除～

- 罟(もんどり)による捕獲
何もかからず・・・失敗
- 地曳網による捕獲

ブラックバス2匹
ブルーギル1匹



公園整備活動～セキショウ・コウホネの移植～

セキショウ:公園内で密集しているものを利用



公園整備活動～セキショウ・コウホネの移植～

↓ 移植作業後



3、今後の課題・展望

クロメダカの生息環境の保全

→ 長期的視野での継続的な活動が必要



これまでの活動経験を活かした
公園整備活動の継続

効果的な広報活動による
情報の拡散

ボランティアを募集し多くの人に
現在の自然環境を認識してもらう

4、決算

収入の部		
基本支給額		40,000
収入合計		40,000
支出の部		
プリンタインク代		4,572
ノート代		525
茨城祭出展費		1,000
構造紙代		880
粘着テープ代		840
コピー用紙代		800
ガムテープ代		300
パネル用スタンド代		812
パネル代		5,000
支出合計		14,729
差引		25,271

最後に・・・

プロジェクト顧問 大辻永 様
茨城県環境管理協会 川島省二 様
水戸市役所環境課 様
水戸市役所公園緑地課 様
逆川を愛する会 様
水戸市公園管理協会 様
ご協力ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

メダカの学校復活プロジェクト一同



目次

- チーム発足・概要
- 活動記録
 - ①活動方針・テーマ決め
 - ②借楽園
 - ③水戸市史の読了
 - ③茨苑祭
 - ④ウォークラリーの開催
 - ⑤ファーマーズマーケットへの参加
- 反省
- 課題・今後
- 決算

チーム発足・概要

- 鈴木先生からの提案
「～水戸って〇〇な街だよ～」

↓ 活動目的

学生視点で
水戸のまちが持つ魅力を再発見し
それを伝える活動に取り組む

- チーム名を「水戸の魅力発掘隊」に
- 顧問：斎藤義則先生
- Facebook 開設

活動記録①方針、テーマ決定

- ブレインストーミング
- 斎藤先生との話し合い

↓

水戸の「歴史」に焦点を当て、活動開始!!

活動の二本柱

借楽園の世界遺産登録事業への関与

水戸のまちウォークラリーの企画

活動記録②借楽園



市役所から「借楽園公園を愛する市民の会」の紹介

↓

「借楽園公園を愛する市民の会」が主催する「借楽園なんでも百科展&スタンプラリー」にスタッフとして参加

《目的》

子どもとその家族に借楽園を知ってもらう活動のお手伝い
借楽園に関する知識を深める

活動報告③ 水戸市史の読了

《目的》水戸市の歴史を知る

↓

水戸市史が最適であるという
顧問の斎藤先生のアドバイスより

↓

水戸市の歴史に関する知識をつけ
まちウォッチングに活用

活動記録④ 茨苑祭

≪目的≫今までの活動内容を展示



- ・水戸の土地利用の変遷年表
- ・茨城大学周辺の歴史
- ・信楽園の歴史や現在の様子



茨城大生や地域の方々に
水戸のまちが持つ歴史の魅力を発信

活動記録④ 茨苑祭

- 来場者数→約70人 22人の方に感想を書いていただいた
- 「丁寧に調査しており、説明もわかりやすかったです。引き続き研究を深めてください」(公務員・男性)
- 「水戸のことを詳しく知ることができてよかったです。改めて水戸について興味を持つことができました」(人社・2年・女性)

活動記録⑤ ウォークラリー～準備～

- 水戸まちづくりの会との連携
- まちの駅みとネットワーク協議会主催のまちウォッチング「ぶらり城下町水戸」に参加
講師：茨城大学図書館長 小野寺淳先生
→ウォークラリー実施に向けて参考に

活動記録⑤ ウォークラリー～実施～

そうだ、水戸を歩こう。
～写真を使ってタイムリープ 水戸の魅力再発見～

- 範囲：水戸駅から泉町3丁目まで
- 参加者：大学生(茨城・常磐・キリスト)30名
スタッフ 9名
水戸まちづくりの会(小ネタ先生)3名
- 昔の写真を見て、現在の風景を同じ構図で撮影
- 時間内に多くのポイントを回ったチームの勝ち

活動記録⑤ ウォークラリー



昔と今の写真をもとに...

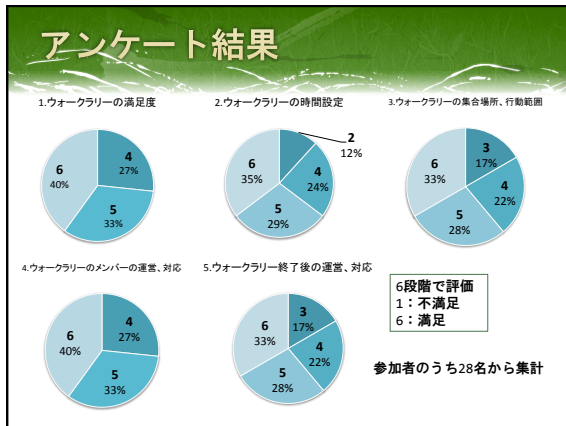
● 欄に注目！ 鳥の建造物は大平門
大平門 築山(1616年) 大平門 大平門 2000 2000

このような写真を撮影！



活動記録⑤ ウォークラリー





- ## ウォークラリー反省
- 小ネタ先生に頼りすぎた
 - チームで知識を共有し説明、参加者との交流
 - 解説から結果発表までの準備不足
 - 同点優勝の場合の対処法を考えていなかった

活動記録⑥ ファーマーズマーケット

泉町振興会主催の
「ファーマーズマーケット」でパネル展示

- 水戸の魅力発掘隊の紹介
- これまでの活動報告
- 水戸の歴史の紹介



一般の方々に情報発信！！

- ## 課題・今後について
- さらなる水戸の魅力を発掘
 - 協力団体との連携体制の強化
 - より広範な情報発信
 - 次に引き継ぐためのチーム活動・メンバーの増員
- 新たなテーマで水戸の魅力をPR!!

決算

項目	支出	残額
模造紙	160	
粘着タブ	840	
コピー用紙	1,000	
スティックのり	360	
ポスカ	2,000	
ポスター制作	5,300	
合計	9,660	30,340

ご清聴ありがとうございました

Team.ネバーランド



顧問：村中均先生
メンバー：武藤千賀子
寺門果央瑠
宮本啓佑
大場有一郎
金子友彦
神永健太
小林広樹
永峰広樹

概要



- ❏ チーム発足理由
- ❏ コンセプト
- ❏ ターゲット
- ❏ 試作
- ❏ 試作②
- ❏ イベント（ときわ祭）
- ❏ イベント（水戸ホーリーホックホーム戦に出店）
- ❏ 成果
- ❏ 1年間の反省
- ❏ 今後の課題

チーム発足理由①



- ・茨城のブランド力が47都道府県中**最下位**という現状
- ・県民としても茨城県への愛着が薄い



県民、県外の人両方に
茨城の良さをもっと知ってほしい！

チーム発足理由②



- ❏ 茨城県、特に水戸市とえば多くの人が「納豆」を連想する
- ❏ しかし、1世帯当たりの納豆に対する支出金額は福島市、盛岡市、に次いで第三位という現状（2011年 政府統計）

水戸納豆を使った食べ物を考案



**納豆消費量をアップさせ、
茨城県を名実ともに納豆王国に!!**

コンセプト



納豆嫌いな人に、
食べやすいものを

ターゲット



“納豆が嫌いな若者”

(理由)

- ❏ 市場調査がしやすい
- ❏ 流行を作り出し発信しやすい



常磐大学生を対象にアンケートを実施！

- ・おい、食感が苦手
- ・食べやすい納豆料理があれば食べてみたい(etc...)

メニュー考案



- アンケートの意見をもとに、匂いや、ネバネバを抑えた

納豆バーガー

をつくることに決定！

試作①



試作から学んだこと



- 納豆がこぼれず、食べやすい形にするのが難しい
- 食べやすさ、調理の簡易さ、見た目は絶対条件
- 試作回数を重ねることが大切
- 利益率の計算等、利益目的を意識する

試作②



- 水戸観光協会から「水戸ちゃあしゅうバーガー」を紹介してもらう
(茨城県水戸市宮町1丁目2-4, マルイ水戸店10F)
- 協力をお願いしたところ、快く引き受けていただき、商品の共同開発することに
- 納豆のクセを減らし、こぼれ落ちるのを防ぐため、
 - 春巻きの皮でつつむ
 - コロッケにするという案をいただく

商品完成！！



仕込み



仕込み



ときわ祭



10月26日
台風のためときわ祭中止の連絡



他の出店機会を模索

水戸ホーリーホックの ホーム戦に出店

水戸ちゃあしゅうバーガーさんに相談

⇒11月10日水戸ホーリーホックのホーム試合と一緒に
参加しないかとのお願い

⇒出店参加することに決定

水戸ホーリーホックの ホーム戦に出店



水戸ホーリーホックの ホーム戦に出店



イベント結果



11月10日 V.S.東京ヴェルディ戦

販売金額	販売個数	金額(円)
300円/個	21	6300
200円/個	9	1800
100円/個	6	600
売上合計	36	8700
雑益		1300
売上合計		10000
製造費		6802
消耗品費		1736
費用合計		8538
利益		1462

イベントの反省



<販売結果>

- ❏ 目標の50個を達成できず（86個中36個）
- ❏ 思ったよりおいしい、あまりおいしくない等の反応が得られた
- ❏ 水戸ちゃあしゅうバーガーさんのお力添えもあり、物珍しさで買ったださる方がいた

<原因>

- ❏ 事前の宣伝活動や販売能力の不足
- ❏ 会場のコンディションの悪さ

成果



- ❏ 水戸の名産品を使った製品を自分たちで考え、商品化まですることが出来た
- ❏ 商品を36人の人を買って頂いて水戸納豆の美味しさを伝えることが出来た
- ❏ 採算を合わせる事が出来た
- ❏ 商品開発～販売活動を通し、たくさんの企業の方や社会人に出会えた
- ❏ 社会の厳しさ、礼儀などを学び、今後につながる経験が出来た

1年間の反省



- ❏ 知名度アップにつながる広報活動が足りなかった
- ❏ イベント出店が1回しかできなかった
- ❏ 目標が明確にならず、方向修正が頻繁だった（利益目的にして良いのかどうか等）

今後の課題



- ❏ 消費者のニーズを研究しそれに合った商品を作り上げる
- ❏ 商品の宣伝を行って、納豆バーガーの認知度を上げる
Ex.WEBプロモーション、チラシなど
- ❏ もっと多くのイベントに参加し、消費者に納豆バーガーを知ってもらう機会を増やす

➡ 知名度アップにつなげたい！！

今後の課題



- ❏ 来年度も新メンバーを加え活動を続けたい
- ❏ 今年の活動では利益はほとんど出なかったが、今後利益が出た場合、それをどうするか検討が必要



ご清聴ありがとうございました。

ホーリーホック応援支隊 ～最終報告～

2014年2月1日

顧問 高橋修先生
メンバー 斎藤直英
鴨川祐太
三輪伸太郎
杉田匠平

目次

- (1) 活動の背景・目的・手法
- (2) 活動① アンケート調査
- (3) 活動② 茨苑祭展示企画
- (4) 活動③ ホーム最終戦企画
- (5) 全体の振り返りと展望
- (6) 予算使用状況

(1-1) 活動の背景

そもそも...水戸ホーリーホックとは

- ・Jリーグ加盟のサッカーチーム
- ・サッカー観戦の提供
- ・水戸市を中心としたスポーツ振興活動

大学との関係...

- ・2013年度に事業提携を締結
- ・今後も人材・地域交流を中心に関係を深める

人材・地域交流の現状

- ・「茨城大学水戸ホーリーホック応援ネットワーク」(ホーリーネット)発足
- ・インターンシップ体験
- ・「アナウンスステーション」による試合運営補助
- ...etc



より交流の範囲を広げていく必要がある！

(1-2) 活動の目的

そもそも...「応援支隊」とは

① ・メンバーは水戸HHを応援してきた

② ・水戸HH+関心の低い人を「応援したい」

一人でも多くの大学生にスタジアム生観戦を楽しんでもらう

(1-3) 活動の手法

目標：11月17日ホーム最終戦でのハイタッチサポーターの募集人数で判断(ホーリーネットとの共同企画)

～これまでの流れ～

5月 プロジェクト始動

6-9月 大学生300名対象のアンケート調査

11月 茨苑祭での水戸HHのPRブース

11月17日 ホーム最終戦企画

(2-1) アンケート調査 6～9月

**目的：大学生のニーズ・知名度を把握し、
今後の企画案に反映させる**

対象：学生338人
 茨城大学 計138人
 茨城キリスト教大学 計200人
 (7割が一年生対象)

(2-2) サッカーに興味はありますか

項目/大学	茨城大学	茨城キリスト	合計
大いにある	24	34	58
少しある	49	80	129
あまりない	45	65	109
全くない	20	21	41

(2-3) サッカー経験はありますか

項目/大学	茨城大学	茨城キリスト	合計
大いにある	9	9	18
少しある	31	33	64
あまりない	37	73	110
全くない	61	84	145
無回答	0	1	1

(2-4) 水戸ホーリーホックを知っていますか

項目/大学	茨城大学	茨城キリスト	合計
はい	113	159	272
いいえ	25	41	66

試合を観戦したことはありますか

項目/大学	茨城大学	茨城キリスト	合計
はい	10	30	40
いいえ	128	168	296
無回答	0	2	2

8割の学生は水戸HHを知っているが、実際に観戦したことがあるのは1割ほどしかない

(2-5) どのような企画（選手との）があれば参加したいですか

項目/大学	茨城大学	茨城キリスト教大	合計
サッカー交流	29	60	89
座談会	12	8	20
講演会	16	15	31
サイン&握手会	32	63	95
応援ツアー	31	60	91
その他	11	10	21
無回答	21	18	39

(2-6) 成果

- ・ 認知度はあるので活動が進めやすい
- ・ 選手と直で交流できる企画に関心がある
→最終戦応援企画、茨苑祭での企画推進
一方、課題も…
- ・ アクセスが困難、行く機会がない、チケット代の高さ …etc
→チームへの関心の低さ
- ・ 集計が遅れ、以降の企画案に影響を与えた
→計画性・対応の甘さ

(3-1) 茨苑祭 11月9～10日

目的：水戸HHに関する展示・告知活動の充実

概要：

- ・ 試合告知の公式ポスター,チラシ展示
- ・ スタジアム案内,アンケート結果展示
- ・ クラブマスコット「ホーリーくん」招へい
- ・ バスチームの活動報告の場としても
- ・ ノベルティグッズの配布,グッズ展示

(3-2) 茨苑祭の記録



(3-3) 成果

- ・ 広報として意義のある活動になった
- ・ 一般の来場者にも多数お越しいただいた
→水戸HHを身近な存在として、知るきっかけに

反面...

- ・ 最終戦企画での告知にとどまった
(当初の計画では,ブースでの販売を予定)
- ・ 大学生に直接告知する手段が取れなかった
→最終戦企画の人数がなかなか集まらない事態に

(4-1) ホーム最終戦企画 11月17日

ブルーミングTシャツ所持者はハイタッチサポーター・ピッチでの練習見学に参加出来る

対象：茨城大学生

告知方法：大学生協前でのチラシ配り,茨苑祭での告知

参加方法：生協にて一枚1000円でシャツを購入

当日購入だと
2000円

(通常メインスタンド席に入場すると
3500円かかる)



(4-2) 最終戦記録





(4-3) 成果

- ・ サポーター**33人**が集まった
- ・ 貴重な体験が出来、試合も勝利できた

課題として...

- ・ 初観戦するサポーターは殆どいなかった
→**広報活動の再考,水戸HHのPR不足**
- ・ ホーリーネットに入会する手立てが不確立
→**来期以降の活動体制の見直し**

(5) 全体の振り返りと展望

- ① 目的達成の為に**具体的目標が適切に設定出来なかった**
- ② 「やりたいこと」「やれること」「やるべきこと」のバランスを取ること
- ③ 関心のある人達を繋げ、その輪を少しずつ広げていく

(6) 予算使用状況

予算40,000円

インクカートリッジ	14226円
のり付きパネル	6456円
写真用紙	1554円
掲示用テープ	1260円
養生テープ	448円

計(支出) 23944円

おわりに…お世話になった方々

水戸ホーリーホック 渡邊 様
上原 様
水戸市 地域振興課 須藤 様
茨城交通 長島 様
理学部M2 杉田さん
茨城大学 水戸ホーリーホック応援ネットワーク

鈴木先生
高橋先生

ご清聴ありがとうございました

ホーリーホック応援支隊一同

ホーリーホックバスに 乗って応援しよう



バスチーム

顧問 高橋修先生

平岡花菜

三宅理紗

樋田結花

高木夏姫

目次

- ・プロジェクトの目的
- ・活動報告
- ・課題と反省



プロジェクトの目的

- ・K' Sスタジアムで試合が行われる際、大半の観客が交通手段にマイカーを使用

➡ 渋滞・騒音の問題が深刻化

シャトルバスの利用率を
高める方法を提案しよう

活動報告

- ・茨城交通様との話し合い
- ・水戸市役所観光復興課様、水戸ホーリーホック様との話し合い
- ・現地調査
- ・宣伝活動（ポスター、チラシ、SNS）
- ・茨苑祭での展示発表
- ・アンケート

茨城交通様との話し合い

- ・主に5月から8月（随時）
- ・コストはかけられない（乗車賃は下げられない）
- ・現在運行されているバスの本数や種類、定員数を確認
- ・バス車内にポスターを掲載する

水戸市役所観光復興課様、 水戸ホーリーホック様との話し合い

- ・目標をより明確に具体的にすべき
- ・車とバスの比較

魅力的な交通手段として
バスを打ちだそう

- ・現状の把握（現地調査・データ集め）
- ・ターゲットを狭い範囲に絞り、戦略をたてる

現地調査

実際にスタジアムに行き、バスの状況や道の混雑状況を調査（車とバスの2チームに分けて水戸駅からスタジアムへ向かった）

わかったこと

- バス→所要時間約30分弱。道は混んでいない。車内放送などの工夫は特になし。車内は閑散としていた。
- 車→所要時間約15分。目立った混雑なし。第1,2の臨時駐車場の9割がうまっていた。
- 試合後、周辺の道路はそれほど渋滞が発生していなかった。

現状ではなんとか駐車場は足りている・・・

ホーリーホックの来シーズン目標は
毎試合1万人来場すること

→来場者の9割が自家用車を用いている現状のままでは、**駐車場が足りなくなってしまう**

渋滞よりも駐車場不足を心配すべきではないか

自家用車利用者がバスに乗って来てもらえるようにするにはどうすべきか

宣伝活動

※3月末まで掲載予定

茨苑祭での展示発表

◆展示内容

- スタジアム行バスの利用状況
- バスの利点について
- 水戸駅～大工町間の観光地について
- スタジアム行バスの情報

- ブースにあまり人が来なかった
→認知度、関心の低さを実感
- 見に来てくれた人の意見を聞くことができた
→営業所からもスタジアム行きのバスを出してほしい

アンケート

茨城大学生にバスの利点を内容としたプレゼンを3回行い、同時に386名にアンケートをした

➡バスの利点を紹介すれば、考えを変えてくれるのどうかを検証

結果は・・・

バスを利用したいと回答した人
説明前・・・40.9%
説明後・・・60.8%

アンケートの結果

説明前	説明後
・車・・・46.7%	・車・・・47.3%
・バス・・・40.8%	・バス・・・43.3%
・バイク・・・1.8%	・バイク・・・2.8%
・自転車・・・7.3%	・自転車・・・5.2%
・徒歩・・・1.6%	・徒歩・・・0.5%
・その他・・・1.8%	・その他・・・0.5%

最初は「車で行こう」と思っていた人の
43.3%がバスで行くと回答

アンケートからの意見

- ・バスの運賃が高い
- ・利用者に特典があるとよい
- ・バスで行ったほうが環境によいこともわかるけれど、駅まで行くのが大変である
- ・バス代、バス停に行くこと、バスのストレスを考えれば、車で行ったときにかかる時間は仕方ないと受け入れる人が多数派ではないか
- ・車社会の水戸ではバスの利用促進は難しいのでは
- ・時間以外に新たな価値を付与しなければファンはバスを利用しないと思う

課題と反省

- ・1年間という短期間で「人々の意識を変える」ということの難しさ
- ・すべての人に利益を与えることの大変さ
- ・「やりたい、やってみたい」だけではダメ

課題と反省

- ・社会人になっても活かせるような能力を得ることができた
- ・バスと同時に、水戸ホーリーホックの認知度も徐々に高めることができた
→Facebookやポスター、アンケート等による効果
- ・私たちの活動に興味を持ってくれた人がいた



©Facebook * <https://www.facebook.com/ibaprobust>

「プロジェクト実習A」活動報告会

ビブリオバトルin常陸太田 実行委員会

2014年2月1日（土）

顧問：常磐大学 長谷川幸一先生
茨城大学 谷口基先生
メンバー：常磐大学 岩本東子（リーダー）
茨城大学 赤津圭子（会計）
芦田真子
飯塚大空（副リーダー）
田嶋直樹（書記）

目次

- ビブリオバトルとは？
- 活動の目的
- これまでの流れ
- 振り返り
- 決算報告

ビブリオバトルとは？

- おすすめしたい本、自分の好きな本を5分間で紹介し合い、「一番読みたくなった本」を競う、本の紹介ゲーム
- ビブリオバトルの手順
 - ①おすすめの本、好きな本を持ち寄ります
 - ②5分間で、その本の魅力を語ります（その後、2分間の質問タイム）
 - ③ほかの発表者と観覧者の投票で、チャンプ本を決定します

活動の目的

- 常陸太田市でビブリオバトルを開催し、本を通じた人々のコミュニケーションの場を創造する
- ビブリオバトルの参加を通し、読書は楽しいものだと思ってもらい、さらに、新しい本との出会い方を知ってもらおう

➡ 意義・機能としては.....

- 「人を通して本を知る。本を通して人を知る」
→本との出会いだけでなく、人との出会いも創造する
- 学生主体でのイベント開催
→学生の企画、立案、実行能力の向上

- 常陸太田市での開催
→①ビブリオバトル未開催の地域
②行政が新しい取り組みを積極的に
行っている
- 市立図書館での開催
→本と人が集まる場所。図書館で借りた本をそのままビブリオバトルで紹介することが出来る。相乗効果

これまでの流れ 5・6月

- 5月
チーム発足
チームの活動内容・今後の段取りについての話し合い
- 6月
学生地域参画プロジェクトから採択
常陸太田市役所や常陸太田市立図書館の方との打ち合わせ

7・8月

- 7月
広報：Twitter、ブログの開設
念願の初ビブリオバトル開催！
(28日、@常陸太田市立図書館)
- 8月
市役所の方と7月ビブリオの振り返り→今後の運営の検討
24日、ビブリオバトル開催
(@生涯学習センター)

9・10月

- 9月
7月のバトル参加者から東海村でのビブリオバトル開催の打診
14日、ビブリオバトル開催
(@常陸太田市立図書館)
- 10月
19日、ビブリオバトル開催
(@生涯学習センター)
共催という形でビブリオバトルin東海村に参加 (@東海村立図書館)

11月

7～10月のバトルのチャンプ本獲得者を招待し、集大成としてのビブリオバトル頂上決戦を開催！
(@常陸太田市立図書館)
→大変な盛り上がりを見せ、「また参加したい！」という声を頂くなど、大成功を収める

11月ビブリオバトルのポスター



チームの活動が掲載された「広報ひたちおた」



振り返り

- 活動初期の段階から常陸太田市役所や常陸太田市立図書館の方と打ち合わせを繰り返したことで、会場の設定などがスムーズに進んだ
- ポスターのデザインや広報、イベント全体に関することについてもご指摘を頂いたことで、より人を呼び込むための企画を考えることが出来た

- 常陸太田のビブリオバトル参加者が、東海村でビブリオバトルの開催



茨城県内で
ビブリオバトルの
輪が広がった!!

- イベントを重ねる毎に、図書館で本を借りて飛び入りで参加する人やリピーターが見られるように
→「活動の目的」の達成

決算報告

	(単位:円)
予算額	154,000
収入の部	
学生地域参画プロジェクト予算	154,000
計	154,000
支出の部	
謝金	3,080
交通費	22,020
消耗品費	80,208
印刷費	24,150
会場借料	2,100
計	131,558
差引残額	22,442

ご清聴、ありがとう
ございました。

CCPチーム 異文化交流プロジェクト ～Share the world～

顧問：杉本妙子先生
メンバー
リーダー：星野由季菜
サブリーダー：木村優希
書記：浦井晴香
会計：比屋根利紀
会計：清野絢
広報：劉勁詩
渉外：鴨志田渉

発表内容

1. チーム結成の経緯
2. 目的
3. 予算について
4. 活動報告（合宿・フォーラム）
5. 反省・成果
6. 会計報告

CCPチーム発足の経緯

昨年度茨城大学・茨城キリスト教大学が
連携して開催した国際交流フォーラム
「<海外>を近くに感じよう！」
インターナショナルチーム

↓ 昨年度スタッフ星野の呼びかけ

異文化交流プロジェクトチーム
(CCPチーム)

CCPチームの目的

地域貢献 国際交流

合宿とフォーラムの二本柱

予算について

H25 学生地域参画
プロジェクトに申請 ➡ 30万円獲得

初期費用4万円+地域参画30万円
= 34万円

地域・国際交流合宿 @常陸大宮

- 開催日：10月5日（土）/6日（日）
- 参加者：茨大20人+茨キリ15人+常磐大1人→総勢36人
- 参加費：4,200円
- 場所：常陸大宮市周辺
- 内容：袋田の滝、文化体験（昔遊び、そば作り）、漉き絵体験

合宿までの流れ

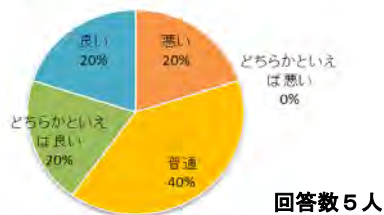
- 7月上旬 当日の具体的な企画案
- 中旬 盛金WAC協議会・その他と交渉
- 8月中旬 現地下見
- 9月上旬 当日の企画内容の決定
参加者募集開始、ポスター作製
- 下旬 参加者決定、追加募集
しおり作成
- 10月上旬 参加者最終決定
- 10月5/6日 合宿開催

合宿当日の様子



アンケート結果（合宿）

合宿評価（盛金WAC）



合宿の反省

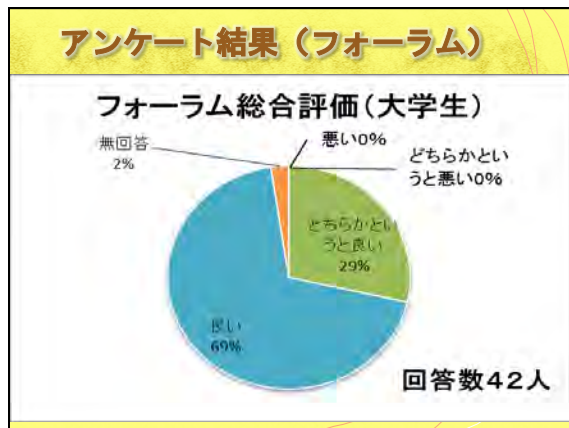
- ・留学生や地域の方と交流を通じて親睦を深めるという目的を達成することができた。
- ・盛金WAC協議会の方には大変お世話になり、参加者の協力も助かった。
- ・連絡はメンバー全員に伝わるように徹底する。
- ・事前に個人の役割を把握し、臨機応変に行動する必要がある。

国際交流学生フォーラム 海外を近くに感じよう2013

- 開催日：12月8日（日）
- 参加者：高校生45人＋茨大32人
＋茨キリ11人＋東大2人
→**総勢90人**
- 参加費：高校生 無料、大学生1,000円
- 場所：茨城大学 水戸キャンパス 茨苑会館
- 内容：国際交流ゲーム、留学体験談、立食会、座談会

フォーラムまでの準備

- 7月下旬 昨年度の企画内容の見直し
- 8月～9月 当日の具体的な企画作成
- 10月中旬 ポスター・チラシ完成
各高校へ参加者募集開始
- 11月中旬 参加者募集締め切り・決定
- 11月下旬 参加者に向けて案内状送付
- 12/8 **フォーラム開催**



- ### フォーラムの反省
- ・ 留学体験談やワークショップ、座談会など学びの要素を入れることができた。
 - ・ 海外に興味を持ってもらえた。
 - ・ 高校生と留学生の親睦が深まった。
 - ・ 大学生と留学生の参加者が国際交流合宿とほぼ同じだった。
 - ・ 高校生の募集をする際、学校を限定してしまった。
 - ・ 大学と高校の交流が地域貢献と言えるのか。

- ### この授業を通して 学んだこと・得たこと
- ・ 計画の重要性
 - ・ 「報・連・相」の重要性
 - ・ 社会人との関わり方・立ち振る舞い
 - ・ 人脈が広がったこと
 - ・ 自信が持てるようになったこと
 - ・ 行動力が身に付いたこと
 - ・ 多くの方々への感謝すること

会計報告

合宿支出	フォーラム支出
交通費（バスチャーター、レンタカー費用） ⇒ ¥124,548	交通費（バスチャーター費用） ⇒ ¥57,750
消耗品（模造紙、紙コップ等） ⇒ ¥5,379	消耗品（マジックペン等） ⇒ ¥8,820
印刷費（配布資料、プリンタインク名刺作成） ⇒ ¥6,715	印刷費、（配布資料、ポスター等） ⇒ ¥46,195
その他（体育館使用料） ⇒ ¥800	その他（国際交流ゲーム参考資料、DVD-R等） ⇒ ¥5,045
計 ¥137,442	計 ¥117,810
⇒合計 ¥255,252	

ご清聴ありがとうございました

Thank you for listening

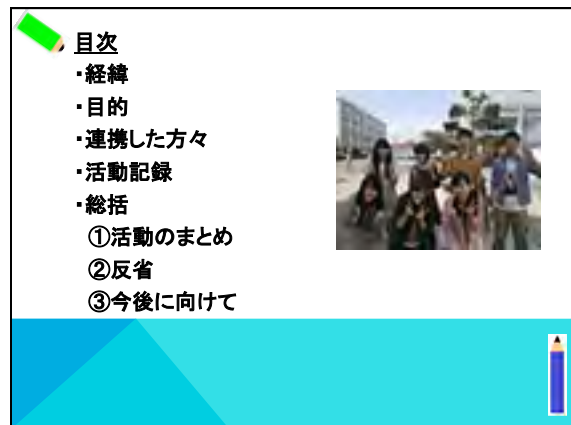
CCPチーム～異文化交流プロジェクト～



SUPPORT OF DEVELOPING COUNTRIES


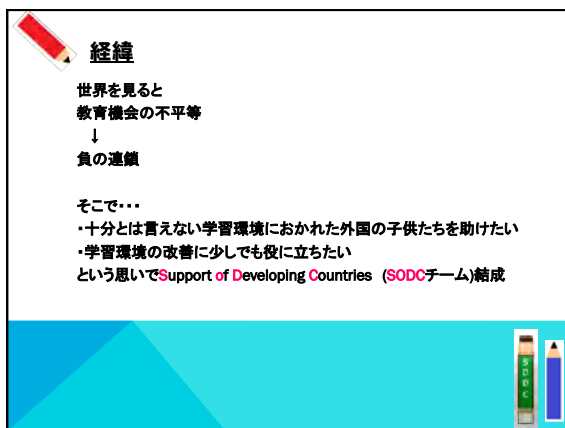
SODCチーム～実習A報告会～

顧問: 葉侑璋先生
メンバー
: 永井 万穂
: 中山 裕貴
: 相馬 すみれ
: 黒須 知美
: 石塚 裕晃
: 眞田 信政
: 田中 芽吹



目次

- ・経緯
- ・目的
- ・連携した方々
- ・活動記録
- ・総括
 - ①活動のまとめ
 - ②反省
 - ③今後に向けて

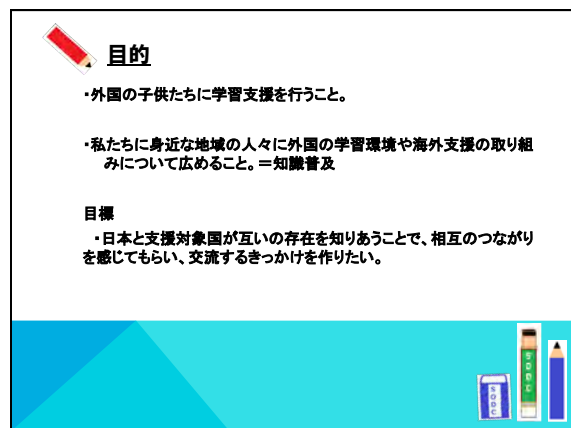
経緯

世界を見ると
教育機会の不平等
↓
負の連鎖

そこで…

- ・十分とは言えない学習環境におかれた外国の子供たちを助けたい
- ・学習環境の改善に少しでも役に立ちたい

という思いでSupport of Developing Countries (SODCチーム)結成

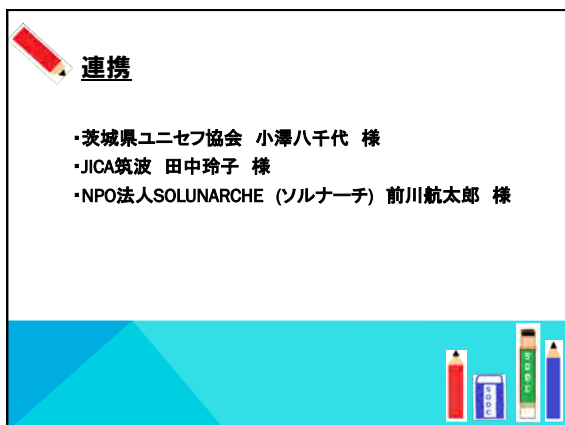


目的

- ・外国の子供たちに学習支援を行うこと。
- ・私たちに身近な地域の人々に外国の学習環境や海外支援の取り組みについて広めること。=知識普及

目標

- ・日本と支援対象国が互いの存在を知りあうことで、相互のつながりを感じてもらい、交流するきっかけを作りたい。



連携

- ・茨城県ユニセフ協会 小澤八千代 様
- ・JICA筑波 田中玲子 様
- ・NPO法人SOLUNARCHE (ソルナーチ) 前川航太郎 様




活動記録

4月 活動・連携の話し合い
5月 ユニセフと連携
6月 ソルナーチと連携
ワークショップ話し合い
鉛筆、消しゴム寄付の呼びかけ
7月 ↓
8月 ユニセフミニ学習会



学内での寄付



集計結果: 鉛筆173本、消しゴム32個

ポスターでの呼びかけ

ご協力ありがとうございました!!!

ユニセフミニ学習会

8月11日

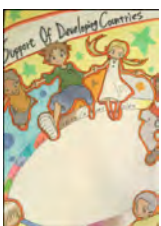


対象: 小学生100人

発展途上国に関するイベントのスタッフ

活動記録

- 9月 ワークショップ交渉(実現不能)
CCPと連携
- 10月 茨苑祭準備
CCP国際交流合宿
JICAと連携
- 11月 **茨苑祭(展示・ミニ講演会)**
- 12月 アジア大洋州地域の青少年短期招聘事業
CCPフォーラム
ファーマーズマーケット



茨苑祭(展示会、ミニ講演会)


場所: 人文学部棟23番教室

1日目 JICA 筑波 田中珠子 様 2日目 茨城県ユニセフ協会 小澤八千代 様




展示会のようす

ファーマーズマーケット



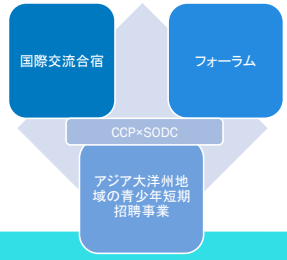
SODC展示ブース



自由帳の表紙を書いてもらいました!

成果
①地域の方々の意見を交換できる場の創出。
②国内からできる支援の実行。

CCPチームと合同の活動




国際交流合宿

フォーラム

CCP×SODC

アジア大洋州地域の青少年短期招聘事業

自由帳




支援対象国：パキスタン
 ソルナーチ前川様が現地訪問
 ↓
 反応を見るために10冊寄贈
 ↓
 ソルナーチがパキスタンから厳選
 ↓
 送り先変更
 ジャパン・プラットフォームと相談中

パキスタンに10冊寄贈した自由帳

総括①活動のまとめ

- ・連携したことでの大きな収穫
 - チームの企画へのアドバイス
 - 現地の様子、支援方法を知る機会
 - 海外支援の大切さと難しさ
- ・SODCチームの収穫
 - 企画を立ち上げることの重要性
 - チーム内での結束力



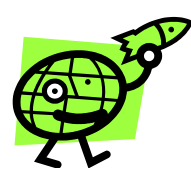

総括②反省

- S・・・Small
- O・・・Oh my god !
- D・・・Did our best!
- C・・・Check




総括③今後に向けて

- ・今年度の計画の見直し
 - 実現不能な企画
 - 年間スケジュール
- ・外国に関する広い知識の習得
 - 世界の現状
 - 教育支援方法
- ・支援の継続

ご静聴ありがとうございました。

twitter アカウント
 @SODCibauni



地域連携ポータル

顧問 小原規宏先生
伊藤美保子
石川 航平
西村 啓汰
小沢 海斗
高田 浩平
添田真太郎

目次

- ① 事業概要
- ② 活動内容
- ③ ふりかえり
- ④ 決算報告

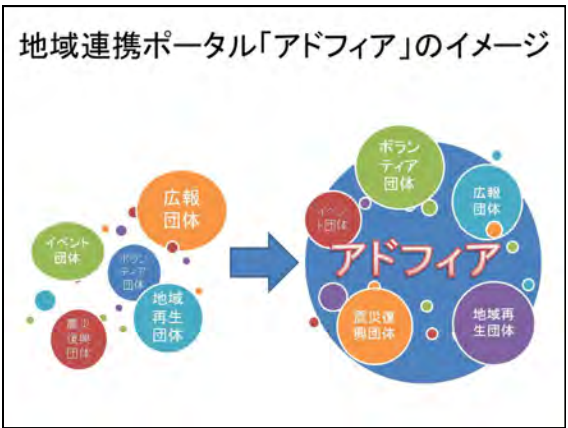
①事業概要

地域連携ポータル アドフィア

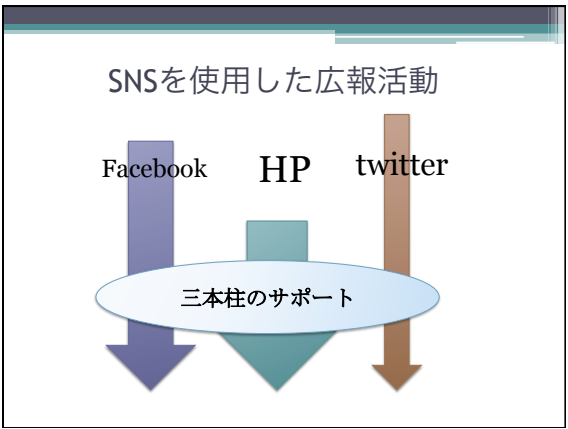
地域連携活動を行う学生を、ポータルサイト等の作成・運営でサポートする

目的
地域連携活動を行う様々な団体の情報を集積し、団体同士の情報交換・活動を発信する場を設けることにより、これまで以上に有意義な活動を可能にする。

目標
掲載団体30チーム



※上の図は制作途中で



②活動内容

H P本始動に向けての土台作り



- ・ 広報
- ・ 取材
- ・ H P制作

広報

- ・ 地域連携活動を行っている研究室への訪問
- ・ 学生交流会への参加
- ・ 地域参画プロジェクト選考会参加
- ・ サステナ活動を繋ぐワークショップへの参加
- ・ ファーマーズマーケットへの参加



サステナ活動のワークショップの様子

配布した用紙

地域連携ポータル 掲載内容記入用紙	
掲載種別	新着情報
チーム名	
掲載の趣旨	
ご自身の関心事	
チームメールアドレス	
掲載したいURLのアドレス	
掲載希望の曜日	
お問い合わせ先	

実際に作成したパネル

機力育成！プロジェクト実習

ファーマーズマーケットの様子



取材

- ・ プロジェクト実習A各チーム
- ・ プロジェクト実習B各チーム
- ・ 茨城大学・茨城キリスト教大学学園祭
- ・ 東北ボランティア
- ・ 大洗応援隊
- ・ 地球村
- ・ 常陸大宮市をフィールドとしたゼミ活動
- ・ 茨城町をフィールドとしたゼミ活動



※画像は制作中のものです

2013.9.4 one day café(里美Café)

成果

- NPO団体とゼミを繋ぐことができた
- 時間をかけ宣伝を行い、協力団体を集めることができた
- HP本始動に向けた課題点を事前に発見できた

反省

- 取材記事を迅速に反映できなかったこと
- チーム内のモチベーションを保つための対策を疎かにしたこと
- 情報共有に対する意識が低かったこと

課題

- 技術力不足への対策
- メンバー各々にあった仕事の割り振り
- 連絡の徹底

④決算報告

初期費用 40,000円
支出金額 13,400円
残金 26,600円

項目	金額	備考
HP制作用ソフト	10,400	
パネル代	3,000	1000×3
合計	13,400	

ご清聴ありがとうございました

地域連携ポータル アドフィア
adphere.portal@gmail.com

泉町二丁目から茨城大学PBL授業へ
提案



一緒に水戸のまちを盛り上げましょう

- 提案① まちを舞台にPBL



- これまでやってきた
 - ミランテア、めだか
 - 魅力発掘、ネバーランド
 - ホーリーホック 等
- ⇒まちなかでPR



一緒に水戸のまちを盛り上げましょう

- 提案②
- まちの一員としてPBL



- 商店街の中に入りこむ
- ⇒インターンシップ

泉町商店会

茨城大学
PBL授業

新しいPBLのカたち

地域連携 ⇒ 地域一体

- インターンシップ型PBL
 - 外部から、課題を発見し解決していくのではなく
 - 内部で現状を分析し課題を設定し、
 - 一緒に解決するプランを考え
 - 一緒にプランを実施していく

泉町二丁目商店街振興組合について



泉町が考えていること



活動内容



やってきたことなど

- <泉町二丁目商店街復興組合/共助助成事業実績>
- 平成24年度
 - ・商店街再生総合支援事業/茨城県+水戸市
 - ・地域コミュニティ機能再生事業(地域状況調査分析事業)/中念庁
 - ・商店街実証活動事業/全農連
 - ・次世代リーダー育成事業/支援センター
 - 平成25年度
 - ・商店街再生総合支援事業/茨城県+水戸市
 - ・中心市街地魅力発信・創造支援事業/中念庁
 - ・日本の食を伝えるプロジェクト事業(食のモデル地域育成事業)/農水省
 - ・地域商店街活性化事業/全農連
 - 平成25年度申請予定
 - ・地域商店街再生事業(コミュニティ機能再生事業)/中念庁
 - 最近の実績
 - ・いばらきデザインセレクション2013 知事選定 /茨城県デザインセンター
 - ・がんばる商店街30選/経産省

ファーマーズ
マーケット
@水戸



まちカル



水戸バー・
パル・パール



あけまして泉町



茨城大学PBL授業とまちなかは・・・

・ PBL授業

- ホーリーホック
- めだかの学校
- ミトランティア
- 魅力発掘隊
- ネバーランド



・ 実際の
活動エリア
は？

茨城大学PBL授業とまちなかは・・・

・ PBL授業

- ホーリーホック
- めだかの学校
- ミトランティア
- 魅力発掘隊
- ネバーランド



ケーズデンキスタジアム
逆川
水戸市内
水戸中心市街地
納豆

茨城大学PBL授業とまちなか さらに、商店街は・・・

・ PBL授業

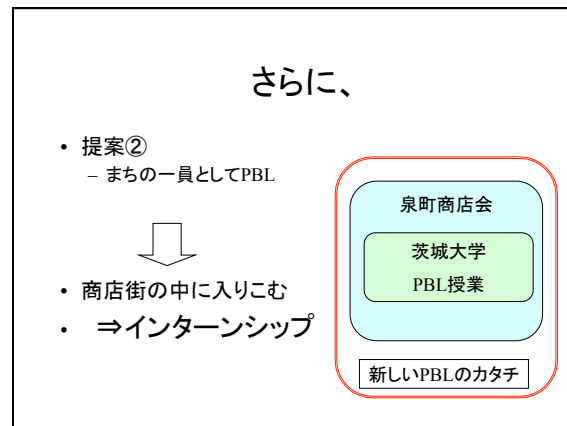
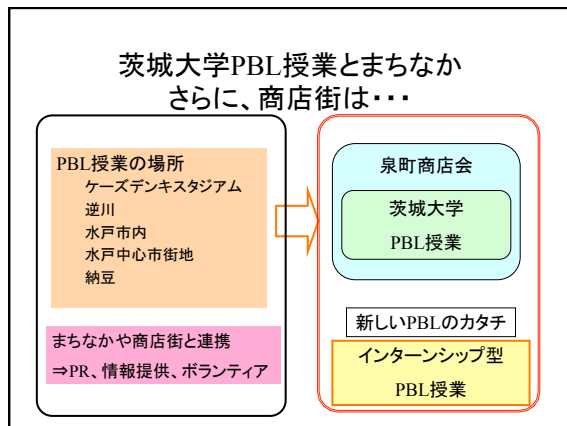
- ホーリーホック
- めだかの学校
- ミトランティア
- 魅力発掘隊
- ネバーランド



ケーズデンキスタジアム
逆川
水戸市内
水戸中心市街地
納豆

茨城大学と泉町二丁目
連携による新しいPBL

まちなかや商店街と連携
⇒PR、情報提供、ボランティア



泉町二丁目の強み

<泉町二丁目商店街振興組合/総務部長 藤原 敬>

- 平成23年度
 - ・県民生活支援事業/茨城県十九市
 - ・地域コミュニティ活動推進事業/地域活性化推進分科事業/中地区
 - ・経営者活動支援事業/分科課
 - ・茨城大学/育成事業/支援センター
- 平成24年度
 - ・県民生活支援事業/茨城県十九市
 - ・中心市街地活性化/創生支援事業/中地区
 - ・中央市街地活性化/分科課/創生支援事業/中地区
 - ・地域活性化推進事業/分科課/創生支援事業/中地区
- 平成25年度
 - ・地域活性化推進事業/中地区
 - ・創生支援事業/中地区
- 最近の実績
 - ・いばなデザインセッション2013、知事選定
 - ・がらんぼ商店街30選/総務部長

泉町の商業エリア

それぞれの強みで補完した 「強力タッグ」

【泉町二丁目商店街】

- 農水省の日本の食を広げるプロジェクト
 - 水戸市食のモデル地域実行協議会
 - ・ PRや集客などへ補助ががる
 - ・ 自由な発想が求められている
 - ・ 協議会には行政から生産者まで多様なかわりがある

【茨城大学】

- PBL授業など
 - 大学生がまちで活動
 - ・ 大学生の発想
 - ・ 行動力
 - ・ あらたなコミュニティー
 - あらたな連携
 - ・ 地域コミュニティーと
 - ・ まちなかの商業者と
 - ・ そのほかの来街者とも出会い、コラボをしていく
 - 毎年変わらない学生数

インターンシップ型PBLでやっていきたいこと

- **マップづくり**
 - 限定的なテーマに沿った“手作りの”マップ
 - ・ 大学生デートで使えるレストランMAP
 - ・ スポーツのあとに食べたい定食屋MAP
 - ・ 学生でも行ける！焼肉店MAP
 - ・ 女子でも食べれる、辛いくないカレーMAP

期待される効果

①学生目線でのMAPづくりによって、まちなかの新たな価値、あらたな切り口が見つかることに期待！

②これを元にイベント企画、周辺住民や学生などの来街者が流入していくことに期待！

一緒に水戸のまちを盛り上げましょう